

真崎地区 村政懇談会

日 時：平成 28 年 6 月 29 日（水） 午後 7 時から 9 時まで

場 所：真崎コミュニティセンター会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局長） 計 10 名

事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員 3 名） 計 6 名

自治会長（真崎区，舟石川三区，原子力機構荒谷台区） 計 3 名

自治会連合会（会長，事務局） 計 2 名

参加者：真崎区 28 名，舟石川三 11 名，原子力機構荒谷台区 2 名，その他 52 名
計 93 名

司会進行：企画・総務部会副部会長 安尾 清志

総計 114 名

《次第》

1. 出席者紹介（自治会長並びに村執行部）
2. 東海村自治会連合会会長挨拶
3. 村長挨拶並びに村政の説明
4. 質疑応答
5. 真崎地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
6. 質疑応答
7. 村政に関する意見交換会(自由質問)

《記録》

【4. 質疑応答（村長挨拶並びに村政の説明）】

真崎区住民：ひたちなか港の火力発電について，前にも村長にお願いしたが，せっかく東京ガスが LNG を配管するのだから，是非その LNG を使った火力発電にしてもらえると嬉しい。東京ガスと東電と一緒に LNG の発電所をつくるのはどうなのか。3号機は石炭だと言っていたが，これは CO₂ が 60%である。東海村が悪いことばかりしていると言われないようお願いしたいと思うが，どうか。

村長：確かに LNG 系発電というのも，実際に那珂市のエリアの中で小規模だが計画がある。東京ガス自体は LNG 系発電も多分どこかで視野に入れているが，今はまだ予定はない。ひたちなか地区の 3号機は，もう環境アセスメントまで進んでおり，早ければ今年度中には 3号機の許可が出る予定になっている。3号機は環境省と経産省と協定を結んでおり，CO₂ 対策も最新の設備で行うということで，一応国の了解をもらい進んでいる。将来的にはやはり LNG を使った発電というのは一つのアイディアとしてはある。ただ，どこがその運営会社になるのかというのはあると思う。

真崎地区 村政懇談会

【6.質疑応答（真崎地区自治会からの事前質問・要望に関する回答）】

真崎区住民：事前質問3点目の村の「協働」に対する考え方や方針について質問したい。質問というより要望だが、行政は前から一本化という話はあるがそのところを是非お願いしたい。これからの事で言うと、このあいだ広域避難計画の説明があった。これは重大なことだが、私はむしろ一般災害、茨城県のこの地域は震度6弱以上の可能性が30年以内に80%以上あるという話の方がはるかに心配になる。広域避難計画の中でも大きなパンフレットや地図も作られているが、そのような単独のものよりは災害全般について資料を作ってもらったほうが良いと思う。説明についても一般災害と同時に説明をしてもらい、要望を聞いてもらいたい。

これまでのことを考えると、地区社協ができて、それから災援プランというのができた。その後、自主防災組織ができた。私も民生委員をやっているが、次から次へと作業におわれている。特に自治会長は大分苦勞しており、真崎コミセンにも相当力を入れて活動している方がいる。両者の分担という意味では、村はむしろ具体的なプランを出し、それをそれぞれの実情に応じて見直していく。プランを作るというのは本当に大変なことである。その為にも、村も行政の一本化ということで関係部がよく話しあい、調整して一本で要求してもらわないと、その都度振り回される感じがする。そのようなことで村には是非行政の一本化をお願いしたい。

村民生活部長：福祉や防災など、色々な事を行政は分かれて行っているため、確かに発言の通り感じる方は本当にいるかと思う。色々質問があったため、一つずつ回答していく。まず、震度6以上の地震が来るという確率だが、80%以上は水戸市であり、東海村は51%である。それでも51%あるので、かなり高確率だと思う。それから避難計画について。今回避難計画で綺麗な色のついた資料を渡した。確かに全体の災害の中の一つの原子力という扱いなので、そこをもう少し工夫させてもらいたいと思っている。行政も先程言ったように福祉の部分であったり、防災の部分であったり、色々な形で組織を依頼したり、計画を作ったりしている。やり方も若干異なるため、できる限り庁内で調整するという作業をこれからしていきたいと考えている。

真崎区住民：古墳群の整備について、教育長をはじめ役場職員に沢山参加してもらい、ありがたかった。その件について古墳の立木伐採等の話を今色々検討してもらっているが、古墳はどのような状態で保存するのが本来の筋なのか、明解にして貰いたいと思っている。古墳に関わっている役場の職員が多数いるように思っている。例えば古墳の上に大木がある事がいけないのではないかと私は認識しているが、その辺も含めてどうあるべきなのかを説明して欲しい。そうすると我々も整備をする時に非常にやりやすくなると思う。

教育次長：古墳の保全のありかたは、なかなか難しい事だと考えている。例えば、今

真崎地区 村政懇談会

年の4月頃だったと思うが、瀬戸内海のある島で、古墳に桜の木が生えており、その根っこが石棺など埋蔵物を傷めてしまうため桜の木を切った際、新聞報道で何故桜の木を切るのかというような話がでていた。また一方では、生えている木を綺麗に切ってしまうと、その根っこが枯れた際に、例えば根っこがある意味土留の役割をして保全する場合もあり、木を切ることによって風雨にさらされて土が崩れることもある。ここは非常に難しいところである。そのため保全等のあり方についてはある程度間引きをしながら、なおかつ古墳を傷めないようにするので、現実的にはケースバイケースになるかと思う。そのため、これだというような一定のスタンダード、標準はないと思うが、現場を見ながら考えていきたい。

舟石川三区住民：協働の考え方について少し泥臭い話をさせてもらいたい。今いみじくも、教育次長が古墳群の掃除に携わり、色々な人の意見を聞いたという話だが、非常に良いことだと思う。私は良いことだと思っている。そのような中で、最近自治会の活動の中に行政の職員が入ってくる事が少ないのではないかという思いがしている。これはそうでないという事ならば、明確に否定してもらって結構である。是非自治会活動に入ってもらい、相互理解を深めてもらいたい。私が自治会長の時は、行政職員に自治会の行事の中はかなり入ってもらった。これは大変負担にはなると思うが、是非入ってもらい相互理解を構築していくということが大事だと思う。例えば先程話があった災援プラン、防犯組織の構築、さらには防災組織の構築。このようなことは自治会に負担がかかっているが、相互理解のもとにそのような事業や組織を構築したと思っている。そのような事がまたこの先起こるかどうかわからないが、常に村民の中に入ってもらい、ニーズを捉えてもらうということが大切だと思うので、是非よろしくお願ひしたい。

村民生活部長：役場全体に係わる話だが、自治会ということで私から答えさせてもらう。行政職員は村長から、地域の事業には積極的に出るようにと指示を受けている。真崎地区は職員の話を見ると、結構参加しているのかなとは思っている。本当に大事な事だと思っているので、また村長からきつく言ってもらい、多くの職員が参加するようにしていきたいと考えている。よろしくお願ひしたい。

【7. 村政に関する意見交換会（自由質問）】

真崎区住民：私の家の後ろの道路が、ちょうど白方と真崎の境界になっており、子供達が通学路に使っている。地図を持ってこなかったが、家の後ろの方が白方である。白方小学校に行く、ちょうど岡崎議員の家の手前あたりになるが、道路の長さはそうは長くはないが、夕べ頃から降った雨で東海村に何故こんな道路があるのかというぐらいに掘られており、時々、砂利を入れてもらえるが、車の通る台数が多いため、すぐ掘られてしまう。家に孫はいないが、よその家の孫達が通っていくのを可哀想だと

真崎地区 村政懇談会

思い、私も女学生時代の頃を思い出した。車が通る度に傘で衣服が汚されないように隠したりしており、ひどい道路である。どうにかならないか。

そしてもう一つ。18歳から選挙権が得られるようになった。世間では国政選挙があるため騒がれているが、以前平成12年度には女性議会というものを村で行っていた。その後子ども議会というのも行った。私もその時に女性議会に参加させてもらい、良かったと思っている。そのような機会があると、子ども達も小さいうちから村のことに関心を持ってくれるのではないかと思う。道路の問題と子ども達の議会の事について2点考えてもらいたい。

建設農政部長：道路について、確か昨年に柵板を少し上げ、今年度は調査を実施して舗装する考えでいる。少々お待ち願いたい。

真崎区住民：ありがたい。

村長公室長：子ども議会について答えさせてもらう。実は今年ひたちなか青年会議所から、東海地区と那珂地区合同で高校生の議会をやりたいと村長に申し出があり、8月2日に実施することになっている。東海高校の生徒6名に加え、近隣の高校も合わせて東海村の議場で今年を行う。来年以降はひたちなか市や那珂市で行うかもしれないが、今年を行うという事は決まっております、これは教育長と調整してもらおうようになるかと思うが、今後も子ども達の希望なども入れて実施できるのであれば実施したいと思う。

教育長：先程の道路は私の家の隣であり、現場の状況はよく分かっている。舗装されていないのは重々分かっている。失礼しました。以前、東海村で子ども議会を行ったが、私も中学校にいたときで、要望ばかりになってしまった。その後、中学生の要望を実現しようということで、本来の議員の要望ではなく子ども達の要望を実現する傾向があった。先生達から要望を実現するためにどんな質問をすれば良いのかという話もあった。本来の子ども議会とまた違った部分があったため、開催しなくなったという事実がある。今、小学生は市民科ということで、例えば家を出したゴミはどこに行っているか、資源ごみはどのように出されているのか、そういった日常生活を学んできている。あとは福祉体験をしている。今年東海南中は中学一年生すべて福祉施設で体験をさせる。そのような活動をしなから、三年生の時に地方自治を学ぶ時に一度議会を見学しており、どんな活動をしているのか、そういった事しっかり学んでから子ども議会等を実施した方が良いと思う。最初から子ども議会を実施すると要望だけになってしまう。やはり子ども達自身がまず地域のことをしっかり知りながら、議会ではどんなことを行っているのか、中学生の鋭い目で大人の議会を見るのも良いのではないかと思うので、段階を経ていきたいと思っている。

舟石川三区住民：広報とうかいについて、3点質問と要望があり、参加させてもらった。1点目だが、私はまだヤングシニアだと自分で思っている。その私だが、広報と

真崎地区 村政懇談会

うかいのシニア世代の記事が、はっきり言って非常に読み辛いと実感している。本当にこれは悔しい。私はどちらかというところコーヒーをゆっくり飲みながら広報とうかいを読むのが楽しみだった。ところが最近枚数がだんだん増えており、印刷も字が小さくまた薄くなってきている。これは私の目のせいかもしれないが、非常に読みにくい。そして私達シニア世代用の記事があちこちにあるため、全部に目を通すととても疲れる。これは私だけなのか。せめて字を大きくゴシック体、強調体にしてもらえばありがたい。

2点目は広報とうかいの編集についての要望。世代毎のまとめ編集にしてはどうかという点。具体的にいえば子育てバージョンとシニアバージョンとあと一般的な共通のバージョンとか、そういう風に編集したらどうかと、できれば早急に行ってもらいたいと思って今日は参加した。

最後3点目だが、回覧板の活用について。現状として村の情報を見なかったとか、分からなかったという方が結構周りに増えている。だから、大事な情報を大書きにして回覧板で回してもらえば、そういう人が私も含めて確実に減るのかなと思う。イライラすると認知症になるとこの前勉強したので、なるべく認知症にならないように気をつけていきたいと考えている。3点の質問と要望をよろしくお願いしたい。

村長公室長：まず1つ目のシニア世代の記事の扱いについて。文字が小さいという事は、実は別の村政懇談会でも指摘があり、私も担当に話をした。これは言い訳ではないが、担当としては皆さんに各課からの色々な情報をお知らせしたいため、どうしても小さな字で詰込んでしまったというのが現状である。その辺を踏まえて、分かりやすい必要最低限の情報を、皆さんに伝えなくてはならないと話をしている所である。文字の大きさについては、なるべく誰でも読めるような大きさが良いと思うので、その辺は今すぐにではなくて、少し検討させてもらいたい。世代毎のまとめ編集という手段もあると思うが、若い世代は今スマートフォン等で色々な情報が取りやすくなっているところもあると思う。そのため世代毎にこういった情報の配信の仕方が良いのかというのもあると思う。実は7月1日からはスマートフォンで情報が分かるような、村から情報発信するアプリも考えているので、そういったものが認知症の防止にも役立つかと思う。そういったことも理解してもらえればと思う。

村民生活部長：回覧板だが、ご存知の通り自治会長や班長へ村がどんどん書類を出すため、事務が本当に大変であり、また回覧板の書類を自治会員が取ってくれないため、そのまま書類が戻ってきてムダ紙になるといった意見ももらった。行政文書配布の廃止は、負担軽減が基本的な目標だったが、回覧を廃止したことによって回覧がない分、広報とうかいに色々な情報を入れようという話になり、ページ数も増えて字も小さくなった。今のところはもう少しこれで行わせてもらい、また自治会の皆さんと話し合う必要があるのかなと思っている。ただ自治会の加入率も50%ちょっとという状況で、村としても自治会の皆さんに回覧したから情報が全て伝わったという事ではなく

真崎地区 村政懇談会

なっていており、残りの40数%の方にも伝えなくてはいけないという事もあったので、効率的に考えると広報とうかがいが良いのだろうと、庁内でも一生懸命考えたが安直なことになった。もう少し状況を見てから調整させてもらいたい。

村長公室長：広報広聴としても、コンビニやスーパーに広報誌等の配布をすることを今年度計画しており、今年中には配置するようなことを考えている。なるべく多くの人に見てもらえるような所も考えている。各課でパンフレットなども発行するので、そういったものも合わせて置けるよう、今年度情報発信という意味で計画しているので、そちらも確認してもらえればと思う。

舟石川三区住民：2点ほど言いたいことがある。1点目は、原子力というか科学というか、そういう施設が原子力科学館や原子力発電所、JAEAなど個別には沢山あるが、それを統合した形の目次的な案内を昔のリコッティなどでできないか。特にJ-PARCなんかはニュートリノ等の関連もあり、そういう施設を歴史館の中で良いのかどうか分からないが、どこかに目次的にまとめることはできないか。そこで東海村はこんな施設がこうあって、J-PARCはこのようなものだとか、原子力とはどんなものだとか、そのような案内を是非考えて欲しい。要望で申し訳ない。もう1点は、去年私が村政懇談会で質問させてもらい、その後どうなっているのか分かれば教えて欲しい。非常に雨風の強い時の資源物回収について、村長から災害が発生した時はやらないと当たりまえの回答をもらった。それができない理由が協力会社との契約の関係だと答えをもらい、その辺を直していきたいということだった。それが今年度に反映されたのかどうか、お伺いしたい。

教育次長：意見の1点目について。村内にある様々な科学の施設などの案内をどこかで一元化できないのかという質問かと思う。歴史資料館の中でという話もあったので、(仮称)歴史と未来の交流館について少し触れさせてもらいながら回答させてもらう。歴史と未来の交流館は歴史資料館的な施設と、青少年育成等の性格を持つ施設の複合施設である。この必要性については長くなるが3点あり、1点目は歴史資料を保存する施設がないということである。これは古い資料を適切に保存しなければならないということである。それから2点目は青少年育成施設。今耐震上危険な場所にあるので早く移さなくてはならない。3点目は、芸術の森公園、ふるさと伝承館、生涯学習センターなど、歴史資料館的な施設が是非欲しいという熱い思いが今でも届いているため。その3点から歴史と未来の交流館の計画を現在進めているところである。歴史資料館と言っているが、実は古いものばかりを扱う資料館ではなく、古い物とそれから動物、植物、暮らしなどを扱う、いわば総合博物館的な機能を考えている。総合博物館的な機能なので、当然科学の分野などについても、紹介や案内をすることもあり、それらに加えて建物の中ばかりではなくて村内全体を東海まるごと博物館というようなことを考えており、様々な史跡や遺跡はもちろん、それぞれの景色とかしきたりと

真崎地区 村政懇談会

か、色々な風俗とかを含めて村内の色々な場所を生涯学習の場として活用していこうという構図である。その中で今発言されたように村内に点在するそのようなテーマを持った施設をうまく繋ぎ合わせて、そこをまるごと博物館構想の中で、ここにはこのようなものがあるといった目次代わりに使うと同時に、そちらの方でこのような生涯学習の視点からできるというようなプログラムを組んでいきたいと考えている。そのため、ただ古い物が並んでいるだけの施設ではなくて、そこを拠点として村内の色々な施設とか場所を活用しながら皆さんが活気ある文化活動に、生涯学習活動に励めるような建物にしたいと思う。

村民生活部長：天候の悪いときの資源ゴミ出しについてお答えしたい。昨年、統一的な判断で暴風雨のため中止ということではできないのかと質問をもらい、自治会連合会から色々な意見をもらって検討していくと回答したが、昨年、自治会連合会から、役場がしっかり決めろという話になり、なかなか本当に良い案がない。同じ日に全部が一斉にやるわけではなく、曜日が違うこともあり、なかなか防災無線も難しい。自主的にお願いするという形しかないと思うが、自主的に行ったときに置いていかれたものについては、天候が悪い中でも置いていった物を業者が回収している状況である。申し訳ないが各集積所の判断ということになる。では、村は何ができるのかという事になるので、役場としても広報等を使い、天候が悪い時には次の機会にしてもらいたいといった形で住民へ知らせていかななくてはならないだろうと内部で話しあっていたところである。今はそのようなところなので、素晴らしい案があれば提案してもらえればと思っている。

舟石川三区住民：あそこの科学館であればこんなものがあるというところを分かるように、ただ単にどこで何をやりますということではなく、行き方も含めて検討してもらえるとありがたい。

教育次長：わかりました。ありがとうございます。

舟石川三区住民：村長の説明の中で、国体を契機にして東海村の良いところをアピールしていきたいという話があった。良いところといっても私なんかはどこがあるのかなという思いがある。例えば、子ども達の医療費免除とかもある。ただ、近隣の市町村もかなり追随してきている。是非、なにか資料にまとめてもらい、私たちも含めてPRができるようにしてもらいたい。詳しく知らないため、自信をもってPRすることができない部分がある。是非、資料にまとめて私達にも説明ができる、そういう資料があったらいいなと思っている。よろしくお願ひしたい。

村長公室長：先程もあったが、実は今年度シティープロモーションという事業を村で実施しようと思っており、その中でウェルカムガイドの作成などをしようと思っている。東海村に住むとどのような暮らしができるのか、子育て目線で書いた情報など、そういったものをイメージとして分かりやすい情報を出せるものを作ろうと考えてい

真崎地区 村政懇談会

る。また今、若い子育て世代は良くフリーペーパーを見ているので、そういったところに東海村の情報も掲載しようと思っている。そういった取り組みに合わせて、村松の虚空蔵堂や大神宮、東海十二景のパンフレットなども観光ボランティアガイドさんに作ってもらっている。なかなか私どもから渡す機会がないので、リクエストしてくれば必要部数等を用意できるようにしたい。

舟石川三区住民：専門で携わったり、自分で携わったりしているところは良く分かる。自信を持ってやれると思う。その他に、例えば先程の発言で初めて知ったものもあるので、是非箇条書きでも良いから、色々説明してもらったような形で調べる資料を出してもらいたい。みんなで共通した情報を共有して PR することが大事だと思う。是非よろしくお願ひしたい。

村長：今、公室長が言ったのはあくまでも外から定住を促進するとか、来てもらう時に行くことなので、村民の方にまず村のことを理解してもらうのが大事だと思っている。私自身もいろんな人に説明するときに、東海村を説明するまとまった資料は無い。私もそういうものが欲しいと思っており、一回作りたいたいと思っている。そのコンパクト版を村民誰もがどこかで入手できるようにしておいた方が良いと思うので、意識して作っていききたい。

舟石川三区住民：事前質問に関しては文書化された回答が来ているが、このような自由質問に対する回答はどんなふうにもらえるのか。例えば去年私は第六期東海村高齢者福祉介護保険事業計画について質問した。「早急に具体化する。ありがとうございます」と回答があったが、どんなふうに具体化したのか未だに私は分からない。少なくとも各地区で自由質問に出たものは、個人宛に回答を出さなくても良いので、この真崎地区なら真崎地区のところに何か出してもらい、去年はこんなふうに答えたから、次はこんなふうに聞きたいといった形にできないかと思っている。多分インターネットで行っているという答えになるのではないかなと思うが、ホームページを検索してみたら、データが沢山あってどんなふうに繋がっているか分からない。なんとかそういう具体化した内容を各地区に置いてもらえればありがたいと思う。

自治推進課課長：発言のとおりホームページにはある。実はデータも大きいので、なかなかパソコンの環境によっては取り辛いかも。そのため、今指摘してもらったように、コミセン単位にしっかりと情報を出したい。役場の中では三ヶ月に一回、村政懇談会で出た質問に対してちゃんと回答が終わったのか終わっていないのか、その区切りごとに調査をして作っている。その表を随時、庁内でまとまり次第各コミュニティセンターに貼り出すようにさせてもらう。必要であれば、連絡をもらえればそういった資料も送ることができるので、是非ともよろしくお願ひしたい。

真崎区住民：先程自治会の加入率が少ないという話があったが、加入率を高める提案

真崎地区 村政懇談会

をさせてもらいたい。自治会の加入促進に東海村と地元の不動産業界と自治会の三者で協力して勧誘できるシステムを検討してもらえないか。村の人口の調査では、新たに東海村に住む方は夫婦と子供の若い世代が多いと聞いた。ほとんどの方が地元の不動産業者や宅地建物取引業者を通じて転居してアパートに住んでいる。だが、アパートなどに住む方達の自治会加入率が低い傾向にある。そこで、先程言ったように提案したいのが東海村と地元の不動産業界と自治会の三者が勧誘するシステムを何か考えられないか。これを日頃からアパートやマンションのオーナーと関わりのある不動産業者に自治会加入のチラシだとか入会届けを置いてもらい、新規契約のとき転入者に勧誘をしてもらえることができたらと思う。これは当然色々障害があるので、そのようなことを考えながら行っていかなくてはいけないと思う。転入時には既に村の役場の窓口で勧誘案内をしてもらっていると聞いている。先程言ったようなことを行えば、更に効果的な勧誘になると思う。横浜市やその他の自治体では、それなりの効果があるようである。これから新たに住む方も地域コミュニティーの担い手になってもらうために、是非ともこういったシステムを作るような支援をしてもらいたい。

村民生活部長：提案ありがとうございます。他の市では、不動産業者と協力して家賃の中に自治会費まで含めて徴収しているような、しっかりしたところもあるという話は聞いたことがある。行政と自治会連合会も自治会加入の促進ということで検討しているので、意見としてもらい精査していきたい。

真崎区住民：村や自治会から回覧等を回すが、年度初めになると班長が代わる。そうすると班長の家がどこにあるのか分からないので、コミセンにある東海村の地図帳の新しいものを買って欲しいという要望である。今コミセンに置いてあるのが40何年と書いてあるやつだと思うが、これだと道がわからない。普通自治会長が回覧板を持って配るが、古い地図だと時間がかかって仕方がないので是非お願いしたい。

村民生活部長：どれくらい古い地図をコミセンで使っているのか把握していないが、かなり古い年代の地図なのかと思う。対処していきたい。

舟石川三区住民：先程村長が10項目程説明した中で、「子育てに優しいまち」という項目があった。待機児童が解消になる事は凄く良いが、そこで働く保母さんの優遇的な措置はどうなっているのか。私もそのような場所で働いていたので、自分の子供を育てているときに、人の子供を預かるのは大変なので、その辺の保母さんの状況はどうなのかと思った。それを思った理由は、6月25日号の広報とうかいに人材バンク登録の記事が載っていた。これを見ると幼稚園とか保育所で働いてみたい方ということで人材バンク登録募集の記事が出ていた。ここでアルバイトや職員、幼稚園とか保母さん、看護師さんなどが登録できる。保母さんが産休に入った時には、その人材登録を利用できるという考えでこのようなことを行っているのか。それとも時間外のこ

真崎地区 村政懇談会

とを考えているのか。保母さんは早番だと7時や7時半くらいから仕事に携わらなくてはならない。遅番は遅番で午後7時か8時になる。そのような勤務だと自分の子供を育てられないというようなこともあった。やはり村の子供を預かる職業の人が良い保育をするには、保母さんの待遇も考えなくてはならない。自分の経験上からそれをどのように考えているのかなと思った。

それからもう1点。各地域に公園がある。楽しい遊具があるということで家族連れが結構多く利用している。そこは近い人は徒歩でということを経験のような感じで言われたが、車で来る方がすごく多い。通路の所に車を止められると、私たち車を利用している者とか歩いている者もすごくハラハラする時がある。やはり子供なので飛び出すこともある。そのため、近隣に駐車場を確保できないのか。

総務部長：最初に人材バンクの件について。人材バンクに登録してもらおうと、職種により、例えば先程の発言のように幼稚園や保育所などで、どうしても人が足りないときに臨時職員として働いてもらうことがある。しかし、現在の幼稚園、保育所の状況は、正職員の絶対数が不足していることから、計画的な配置を踏まえ、考えなくてはいけないと思っている。保育所や幼稚園のほうでも職員のローテーションを組んで時間を調整して足りないぶんは補充している。

舟石川三区住民：そうではなくて保母さんには早番遅番があるので、その時に人材バンクに登録されてる方が1人ついて、後は臨時職員が早番に出るとか、そのような対応を行っているのか、行えるのかということを質問している。

総務部長：幼稚園の現状が見えないので確認したい。

舟石川三区住民：この人材バンクはあくまでも産休や、人が足りなかった時に非常勤として活用しているということか。

総務部長：そうである。

建設農政部長：公園の駐車場についてお答えしたい。お話しの公園の場所が分からないので後ほど困っている公園を伺い、場所に行ってみたいと思う。きっと区画整理内の公園かと思う。

舟石川三区住民：なごみの裏。

建設農政部長：駅東第4公園かと思う。基本的に区画整理内の公園というのは街区公園と言って、区画整理による減歩から生み出された公園なので近くになかなか駐車場がないというのが現状である。阿漕ヶ浦運動公園とか近隣公園などの大きな公園は駐車場を完備しているが、基本的に区画整理内の公園は都市計画の中で先程の発言のとおり徒歩でいく目的の公園である。ただ実際危険というか危ないのであれば、公園内部の一部を駐車場とかスペースがあればそのような事もできると思う。公園の周囲によっても色々と状況が違うと思うので、個別に後ほど相談させていただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

真崎地区 村政懇談会

真崎区住民：教育長の意見を聞きたい。スポーツ少年団の関係だが、今度スポーツ少年団に在籍していた吉村さんが卓球でオリンピックに出るということで、夕方に千羽鶴の要請がポストに入っていたが、村報にも載っていない。個人情報なのであまり詳しく載っていないのかと思うが、千羽鶴を実家に送るから作って欲しいと依頼が来たが、子供達を集める日にちがなく、子供達に詳細を説明するのも地元の小学校や中学校を通してあるのかどうか、その辺が少し分からないので、父兄等に説明するためにその辺の詳細を教えてもらいたい。

教育次長：教育長の意見を聞きたいとの事だったが、次長が説明させてもらう。今の発言のとおり、吉村真晴選手がリオオリンピックの卓球の日本代表ということで参加が決定した。吉村選手は東海村で生まれ育ったが、中学校に上がるときに宮城県の中学校に進み、それから山口県内の中学校、高校に進んで愛知工業大学を出た。今年の3月に卒業したが、実は吉村選手はプロ選手ということで、あるエージェントと契約した。私どもも遅ればせながら吉村真晴選手のオリンピック出場を祝って、役場に少し小さいが懸垂幕を出している。プロ契約した選手なので、なかなか取り扱いが難しい。私どもで吉村真晴という名前を使うこと自体が一般的に禁止されている。その会社と相談をして懸垂幕に使わせてもらうことになった。その会社からは、「一般的にはオリンピックとか五輪という言葉は JOC の許可がなければ使えない、村で懸垂幕を作りたいのならば許可を貰ってくれ」という話があり、色々紆余曲折があってやっと「オリンピック出場おめでとう」という垂れ幕を出したところである。今、吉村選手はスポンサー契約を名古屋ダイハツと結んでいるが、住所等はエージェントでなければ分からないため、私達も分からない。千羽鶴をどんなふうに送るとなっているか、私も情報がないので分からない。そのような訳で、非常に喜ばしい事だが、プロ選手ということで村を挙げて気分を盛り上げることは大事だと思うが、なかなか制約が多い。

教育長：村のスポーツ少年団から千羽鶴の依頼が来ているのか？

真崎区住民：村のスポーツ少年団から依頼がきた。千羽鶴を送るので今度の日曜日に説明するのに、どこの小学校を卒業しているのか聞きたかった。細かいところは分からない。

教育長：吉村真晴くんは白方出身である。白方小学校に6年までおり、先程次長から話があったように東海クラブという結構力のある卓球クラブで活躍し、仙台の仙台育英高校中等部に行った。だが、高等部に行ったときに国体が山口にあるという事で選手全員山口の野田学園に行って、国体に出て、インターハイにも当然出て、先程言っていたように愛知工業大学行って活躍したという方である。父親は東海クラブで指導していたが、現在は土浦で卓球クラブと卓球用品の店を開いているという話を聞いている。今現在東海には父親は住んでいないというのが現実。後でスポーツ少年団からの依頼を見せてもらいたい。

真崎地区 村政懇談会

以上